

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

プレコングレスワークショップ 15	
企画名	退院前カンファレンスを変えよう～LIFE SUPPORT カンファレンスのススメ～
日時	2017年5月12日(金) 15:00～16:30
会場	第8会場 (高松シンボルタワー タワー棟 4F BBスクエア)
企画責任者	鈴木 諭 (群馬家庭医療学センター/利根保健生活協同組合利根中央病院総合診療科/筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻地域医療教育学分野)
定員	54名
開催の目的・概要	
【開催の目的】 健康の社会的決定要因 (Social determinants of health; SDH) についての知識を実臨床で応用し、健康問題に対する upstream approach を実践できるようになる	
【具体的獲得目標】 ①SDH の具体的な項目と科学的根拠について挙げることができる ②Social vital signs (SVS) の概念を理解し、評価項目と評価方法を挙げる ③SDH と SVS を念頭においた退院前カンファレンスの運営ができる	
【概要】 健康格差や介護心中などの問題がメディアを賑わし、第一線で働く医療従事者にとって患者・家族の生活上の問題を把握し必要な医療・社会的支援につなげる力が求められている。一方で、実際の医療現場で SDH の体系的知識に基づいた支援に関する戦略的アプローチは未だ確立されておらず、多くの患者・家族および医療従事者が複雑困難な問題に直面している。この状況の解決策として、本ワークショップ開催者らは複数のセッティング (入退院時、外来、訪問診療) で使う事ができる、SDH の知識を導入した LIFE SUPPORT カンファレンスの開発に取り組んでいる。 本ワークショップは、SDH という言葉に馴染みのない全ての方を対象とする。特に、「治療は終わったが退院できない」状況に悩む事が多い方や、退院支援について試行錯誤してきたが、さらに一歩前進したい方に受講をお勧めする。当日は SDH の概念と科学的エビデンスのある具体的な項目、SDH の危機に晒された人の早期拾い上げという視点で作成した SVS の概念とそのスクリーニングツールの使用方法について講義を行い、参加者の SDH 関連領域の知識獲得を支援する。また、実臨床で適用できる医療及び社会的支援策を紹介し、LIFE SUPPORT カンファレンスの1つである退院前カンファレンスを体験する事で、実臨床での応用方法を参加者が体得できるようにする。	